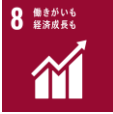


市長マニフェストの取組状況（令和4年度の主な実績）

※実施した各事業は17のSDGsのゴールと紐づけています。

ビジョン1 『ひと』を育む

安心して子どもを産み、育てることができる環境づくり	母子保健と子育て支援の一体的・総合的な実施	○妊娠・出産・子育てに関する相談について、育児不安や虐待の予防を図るため、必要に応じて支援プランの作成、情報提供、助言、保健指導を行いました。 ○母子保健施策と子育て支援施策の両面から、妊娠期から子育て期の伴走型相談支援を行いました。	
	産後ケアの拡充	○お母さんと赤ちゃんの心身のケアや育児サポートを行い、産後の育児を支援する「産後ケア事業」において、「宿泊型」「訪問型」「通所型」のケア事業を実施しました。	
	保育体制の強化と質の向上	○保育所などにおいて集団保育が可能な医療的ケア児を受け入れるために必要な体制を新たに整備しました。令和4年度は公立保育所1カ所で看護師2名を専任で配置し、1名の医療的ケア児の受入れを行いました。 ○地域型保育事業所の整備、私立幼稚園の認定こども園移行により、適正な保育定員を確保したことにより、従来は育児休業取得時に退園しなければいけなかった0～2歳児の保育所の継続利用を可能とし、保育体制の向上を図ることができました。 ○保育の「質」の向上のため、市内保育所などに勤務する保育士を対象とした研修会や勉強会を実施しました。	  
	子どもの貧困対策の強化	○市内で子ども食堂や子ども宅食を運営する団体に、その運営経費の一部を助成しました。	  
地域が誇る資源を活かした教育環境づくり	「かかみがはら寺子屋事業」のさらなる拡充	○自宅や学校にしながら工場見学が体験できる「オンライン寺子屋事業」として、従来の「航空機産業」、「自動車産業」、「生活産業」の3コースに加え、新たに「木材・木製品産業」、「繊維産業」、「食品・養蜂産業」の動画を制作し、市ウェブサイトで公開しました。 ○コロナ禍において、市内小中学生にやさしさを育む機会を提供し、将来の福祉の担い手を育成するため、福祉体験学習をオンラインで開催し、58人が参加しました。	  

	コミュニティ・スクール事業の推進	○コミュニティ・スクール事業の取組として、地域の方による学校教育への参加、子どもたちの地域参画の促進、学校間の連携の強化を行いました。	  
確かな学力と豊かな人間性を育む教育環境づくり	小中高一貫の特別支援学校の建設	○令和7年度の開校に向けて、用地の取得及び校舎など建物や、敷地造成・グラウンド・外構整備の設計を完了しました。 ○設計業務などの参考とするため、特別支援教育に関する有識者や関係保護者、地元役員などからなる座談会を4回開催しました。 ○かわら版の発行や市ウェブサイトによる情報発信のほか、新特別支援学校に入学する可能性のある方を対象とした保護者説明会を計8回実施しました。	  
	地域の核となる学校の存続と活用	○小規模学校の良さを活かした特色のある教育活動を行い、市内の他の就学区域からの就学を認める「小規模特認校」として、稲羽東小学校と緑苑小学校の2校を指定しました。 ○学校建替基本方針策定委員会を設置し、各務原市の学校施設のあるべき姿や建替などの進め方についての基本的な方針の検討を進めました。	 
	I C T機器を活用した学習指導の充実	○児童生徒が自分の得意を伸ばすこと、多くの仲間との多様な考えの共有、深まりがある学習を行うため、電子黒板の最新式ディスプレイへの更新、ディスプレイを活用した校内放送システムの導入などのI C T機器の整備を行いました。また、タブレット端末とネットワーク環境を有効活用した学習指導のため、I C T支援員の配置、新たな学習支援ソフトの導入を行いました。	 
	不登校対策の強化	○教育支援センター「あすなろ教室」、「さくら」において、様々な理由から学校に行きづらさを感じている児童生徒が安心して活動できる居場所を提供し、社会的自立に向けて支援しました。令和4年度には新たな拠点となる「さくらまえみや」を開館しました。	  

ビジョン2 『くらし』を守る

人生を充実させる「健やかで元気なまち」づくり	防災機能を併せ持つ新総合体育館の建設	○スポーツだけでなく、にぎわいや防災の拠点となる新たな総合体育館と総合防災公園の整備に向けた基本計画を策定しました。 ○基本計画の策定にあたり、市民ワークショップやパブリックコメント、市民説明会を実施しました。また、新総合体育館建設基本構想・基本計画策定委員会を3回、防災会議を1回開催しました。 ○各種競技団体などへヒアリングや説明を実施したほか、より良い施設とするため、他市施設の事例研究を行い、計画に反映しました。 ○かわら版の発行や市ウェブサイトによる情報発信に努めました。	3 3 すべての人に健康と福祉を 4 4 質の高い教育をみんなに 11 11 住み続けられるまちづくりを 13 13 気候変動に具体的な対策を 15 15 陸の豊かさも守ろう
地域で安心して暮らせる環境づくり	フレイル予防事業の推進 ※フレイルとは、高齢期に心身の機能が衰えた状態のことをいいます。	○これからの市民公園の使い方を気軽に話し合うオープンな場として、パークリノベミーティングを1回開催しました。その中で、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっていた実証実験を実施し、利用者目線での自由な公園の使われ方や過ごし方についての試行を行いました。 ○ウォーキングを通じた高齢者のフレイル予防と、スマートフォンアプリの利用によるICT利活用の促進のため、「かかみがはらフレイル予防ウォーキング」を開催し、598名が参加しました。 ○ボランティアハウスなどの通いの場に保健師や管理栄養士などの医療専門職が出向き、フレイルチェックやフレイル予防の普及・啓発、健康教育・相談などを延べ51回実施しました。 ○市と市民が一体となってフレイル予防に取り組むため、「フレイル予防サポーター養成研修」を実施し、市民サポーターを34名養成しました。 ○フレイル予防の重要性を市民に広く周知するため、中部学院大学と連携し、フレイル予防講演会を実施しました。	11 11 住み続けられるまちづくりを 17 17 パートナリシップで目標を達成しよう 3 3 すべての人に健康と福祉を 17 17 パートナリシップで目標を達成しよう
地域包括ケア体制の構築		○認知症の方やそのご家族が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、認知症者の外出支援として、「認知症者見守りシール配布事業」と「認知症者個人賠償責任保険加入事業」を実施しました。また、障がい児者の外出支援のため、「障がい児者見守りシール配布事業」を実施しました。 ○認知症高齢者や知的・精神障がい者の生命、身体、財産などの権利を守るため、成年後見支援センターにおいて、成年後見制度の普及啓発や相談を実施しました。 ○市民後見人養成講座の修了者が、より専門的な知識を得るためのフォローアップ研修を実施しました。	3 3 すべての人に健康と福祉を 10 10 人や国の不平等をなくそう 11 11 住み続けられるまちづくりを 16 16 平和と公正をすべての人に
ひとり親家庭への支援		○ひとり親世帯の高校生の通学費や、養育費に関する公正証書などの作成に必要な経費の一部を補助しました。 ○ひとり親世帯において、親が就労に必要な技能や資格を取得する場合などに給付金を支給しました。	1 1 貧困をなくそう 4 4 質の高い教育をみんなに 10 10 人や国の不平等をなくそう

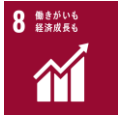
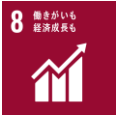
	救急医療体制の維持	○市内唯一の総合病院として市民病院的役割を担っている東海中央病院における救急医療体制の維持に対して支援を行いました。また、高度医療体制維持のため、高額医療機器購入を支援する補助金を交付しました。	
様々な災害に備える安全・安心づくり	新庁舎の完成	○新庁舎の全体完成に向けて、旧庁舎の解体工事が完了し、低層棟・外構工事に着工しました。	  
	防災・災害対策の強化	○令和3年度に導入した防災システムを使用し、年2回、風水害と地震を想定した災害対策本部訓練を実施し、災害対策本部機能の強化に努めました。 ○大規模災害時に、り災証明書の発行を迅速に行うため、他市町村からの応援職員の受入れを想定した、被災家屋の被害認定調査訓練を実施しました。 ○災害発生時に迅速に応急対応を行えるよう、他自治体や民間事業者などと災害時の応援・協力に関する協定や覚書を結びました。 ○より実践的な防災学習の機会として、小学4～6年生を対象とした「防災教室」を充実させ、座学に加え避難所用の資機材などを使用した体験型の学習を行いました。 ○大規模災害の発生に備え、避難所などに備蓄している食料、生活物資、資機材などの充実を図りました。また、一次避難所となる小中学校のうち、マンホールトイレの設置ができる下水道工事の完了した学校4校について、マンホールトイレを購入するなど、避難所開設時のトイレ環境の充実を図りました。 ○雨水の浸水被害を軽減するため、織田信長公園に雨水地下貯留施設の整備を行いました。また、山の前雨水調整池の整備に向けて、実施設計、用地買収を実施しました。 ○県が実施する農業用ため池の防災事業に対して負担金を支出し、大安寺新池と芋ヶ瀬池の豪雨対策および耐震補強工事を実施しました。	 
	消防団活動の支援強化	○災害及び火災に係る出動報酬の引き上げや、出動時の費用弁償の創設により、消防団員の処遇改善を図りました。 ○消防団車庫、車両、小型動力消防ポンプの計画的な更新、岐阜県消防学校への派遣などにより、消防団活動の環境整備や技術向上を図りました。	 

ビジョン3 『まち』を支える

「ならでは」、「らしさ」を活かしたまちの魅力づくり	東京オリンピック・パラリンピックの機会を活かした事業の実施 木曽川を核とした観光施策の検討 特産品「ニンジン」を活かした事業の実施	○東京2020大会を契機としたオランダとのホストタウン交流をオリンピックレガシーとして残していくため、市と関係機関が連携して、オランダとのホストタウン交流を通じた国際理解の推進をさらに進めるとともに、各務原市におけるホッケーの推進を図りました。 ○木曽川中流域の自治体や関係機関などにて構成する「木曽川中流域観光振興協議会」において、木曽川に育まれた流域の「歴史」「生活」「文化」を観光資源として活用し、広域的な連携のもと、地域外からの誘客及び観光消費額拡大に取り組みました。その一環として、川と山とまちのつながりを通して持続可能な観光のカタチを考えるイベント「日本ライン・KISOGAWA River to Summit 2022」を開催しました。 ○J A、商工会議所、東海学院大学、市で構成する「各務原人参ブランド推進連絡協議会」を中心に、各務原にんじんのブランド化、地産地消、消費の拡大を図るため、中高生のための料理教室、にんじん弁当開発販売、小学校における出前講座、見学事業を実施しました。	3 すべての人に健康と福祉を 17 パートナースhipで目標を達成しよう 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナースhipで目標を達成しよう 2 空腹をゼロに 17 パートナースhipで目標を達成しよう
充実した生活を支える産業活力づくり	時代に求められる新たな雇用対策事業の推進	○県内外の大学と連携・協力に関する協定を締結し、学生と市内企業との就職マッチングの取組に向けた関係強化を実施しました。 ○大手就職情報サイトに市内企業が求人情報を掲載する際に要する費用の一部を補助する「新規学卒者確保応援事業補助金」を創設し、企業の採用活動を支援しました。 ○民間企業が主催する就職マッチングイベントのブースを確保し、市内企業の出展を支援しました。 ○子育て世代の女性、復職を希望する女性や生涯現役で活躍したいシニア世代を対象とした合同企業説明会・企業見学会を開催し、求職者と人材不足の企業とのマッチングを実施しました。 ○女性の職場復帰や再就職に向け、自分らしい働き方を発見する第一歩を後押しするため、セミナーやキャリアコンサルタントとの個別相談からなる「女性応援セミナー」を開催しました。	5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 17 パートナースhipで目標を達成しよう
コロナ禍を乗り越えるための企業活動支援		○エネルギー価格高騰の影響により、厳しい経営環境に置かれている市内事業者を支援するため、一定額以上のエネルギー経費を要した対象事業者へ、「各務原市中小企業等エネルギー価格高騰対策支援金」を交付しました。 ○市内中小企業が様々な事業環境の変化に対応することを目的として、新たなビジネスの創出を促進するため、設備投資などに必要な経費の一部を補助するとともに、自社の「ブランディング戦略」を学ぶためのセミナーや勉強会を開催しました。さらには、新たなビジネス創出に向けた取組を先進的に進める地域との交流会を開催し、企業同士の交流促進を行いました。	8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 17 パートナースhipで目標を達成しよう

		○市内中小企業のDXを通じたビジネスモデル変革の推進に向けて、ＩＴ・ＩｏＴ、ロボットなどの積極的な活用を促進するため、DXに関連したセミナーの開催や、ＩＴ・自動化に関するツールを有する事業者を集めた展示会を開催し、DX推進の必要性に関する情報提供を行うとともに、ＩＴツールの導入に必要な経費の一部を補助しました。 ○ロボット導入の促進やデジタル人材の育成に向けて、株式会社ブイアールテクノセンターや公益財団法人ソフピアジャパンが実施する各種研修の受講に必要な経費の一部を補助しました。 ○コロナ禍の影響を受ける航空機産業に対し、高度な品質規格を維持し、競争力を保つために必要な経費の一部を補助しました。 ○新たな分野へ進出するための取組に必要な経費を補助するとともに、県や支援機関と連携し、大都市圏において開催された展示会への出展支援を行いました。 ○市内中小事業者への支援策として、クラウドファンディングを活用した支援事業であるプレミアム付商品券「このまち応援チケット」を発行しました。	
便利で快適に暮らせる都市基盤づくり	新たなデマンド型交通システム「チョイソコかかみがはら」運行エリア拡充	○令和４年１０月より、鶴沼南エリアに加え、須衛・各務・八木山エリアも対象地区とし、本格運行を開始しました。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを
	広域幹線道路整備の推進	○交通の利便性や安全性を向上させ、広域ネットワークや良好な市街地の整備を推進するため、都市計画道路日野岩地大野線の整備を進めました。 ○都市計画道路岐阜鶴沼線などの広域幹線道路について、県施工区間の早期整備を県に要望しました。	11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナシップで目標を達成しよう
	新たな土地の有効活用の推進	○各務山の採石場跡地の有効活用を図り、雇用機会の創出と地域経済の発展のため、各務原市土地開発公社が主体となり、各務山土地造成事業を実施し、工業用地の分譲及び販売を行いました。また、新たな工業団地へのアクセス向上と市内交通の円滑化を図るため、各務山を南北に縦断する道路の整備を進めました。 ○各務原浄化センター西側の木曾川河川敷における、公募設置管理制度（Park-PFI）を活用し民間のノウハウやアイデアを取り入れた公園の整備及び運営について、事業者と基本協定を締結しました。	8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナシップで目標を達成しよう

プラス『未来を見据えた』まちづくり

笑顔があふれる元気なまちへ	新型コロナウイルス感染症に伴う支援事業の継続実施	○新型コロナウイルス感染症による厳しい経済状況において、市民生活を支援することを目的としたプレミアム率100%の商品券である、各務原市プレミアム付き商品券2022（帰ってきたららチケット）の発行を行いました。	 
	「人とのつながり・地域とのつながり」を感じられる事業の推進	○空宙博（そらはく）リニューアル5周年記念イベントに合わせて、航空自衛隊で活躍し本市にゆかりの深い戦闘機F-4ファントムを岐阜かかみがはら航空宇宙博物館に新たに展示しました。 ○「スポーツげんき祭」・「マーケット日和」・「かかみがはらおさんぽマルシェ」につなかりを持たせることで、参加される方が様々なイベントに触れることができる新たなイベント「かかみがはらオータムフェスタ」を開催しました。 ○下水道事業への理解と関心を深め、その普及促進につなげるとともに市の魅力をPRするため、市内8カ所にオリジナルのデザインマンホールを設置しました。 ○親類やボランティアなどの支援が受けられず、最寄りのごみ集積所までごみを出すことが出来ない虚弱な高齢者の方などを対象に、ごみ出し支援を新たに開始しました。 ○ヤングケアラーを早期に発見し、適切な支援につなげられるよう、社会的認知度の向上を図るための広報・啓発や、適切な支援について理解を深めるための小中学校の先生、民生委員向けの研修を実施しました。 ○本市で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍などの違いに関わらずお互いに個性を尊重し、多様性を活かして活躍できる活気に満ちた地域社会づくりを目指し、「各務原市多文化共生推進プラン」を策定しました。	        
	SDGsを意識した取り組みの強化	○市内におけるSDGsの普及啓発や、企業や団体などのSDGsの達成に向けた取組の推進などにより、持続可能なまちづくりを実現するため、「かかみがはらSDGsパートナー登録制度」を創設し、令和4年度は85社が登録しました。 ○「かかみがはらSDGsパートナー」に登録いただいた企業・団体の交流・情報交換を目的とした、第1回かかみがはらSDGsパートナー交流会を開催しました。 ○食品ロスを減らすために、市内ショッピングセンターでの啓発イベントの開催や、食品ロス削減料理教室を実施しました。	 
	多角的な空き家対策事業の推進	○空き家の有効活用や移住定住の促進による地域活性化を図るため、空き家を買りたい人と空き家を利用したい人をつなぐ「空き家バンク」を開設しました。 ○空き家発生の予防や空き家の適正管理の推進のため、空き家相談会の開催や、空き家所有者に対して適正管理の依頼を行いました。	 

		○生活にこだわりのある若い世代や子育て世代に空き家を繋げて活用する、借主負担DIY型契約による「空き家リノベーション事業」を行いました。	
	通学路のさらなる安全・安心の確保	○児童の安全、安心を確保するため、教育委員会、学校、道路管理者、警察が連携して実施する通学路合同安全点検などにより、通学路で危険性のある区間に、路肩のカラー塗装や、防護柵の設置を実施しました。また、通学路への防犯カメラの設置に向けて検討を行いました。	 
	デジタル化の推進	○24時間365日いつでもどこからでも利用可能なオンライン申請環境に、マイナンバーカードと連携し、オンライン上で本人確認の行える電子申請や、オンライン決済の機能を追加しました。 ○本庁窓口やサービスセンターなどにキャッシュレス決済機器を導入し、クレジットカードや電子マネーなどによる支払いに対応しました。	 



●SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015 年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。